表8　コガネシマアジの種苗生産結果

年　度	使用水槽	仔魚収容数	飼育日数	取揚尾数	全　長	歩留り	沖出し月日
	t	尾	日	尾	mm	%	
昭和58年	1.5	25,000	33	420	18.5	1.6	継続飼育
	1.0	10,000	30	154	15.5	1.5	
	0.5→1.0	10,000	30	1,121	14.2	11.2	
	0.5→5.0	6,000	15で全滅	−	−	−	
	0.5	5,000	14で全滅	−	−	−	
	1.0→6 0	2,300	43	330	36.3	14.3	親魚池へ
	6 0	100,000	23	12,000	10.8	12.0	8月16日
	1.0→6 0	8,000	34	1,150	33.0	14.3	9月26日
昭和59年	1.0	28,000	18	12,491	6.1	44.6	6月14日
	1.0	23,400	16	7,450	6.0	31.8	6月4日
	1.0	18,000	15	6,320	5.8	35.1	6月14日
	6 0	600,000	21	53,000	7.0	9.0	7月25日
			41	1,050	33.6		8月14日
	6 0	180,000	21	28,000	7.0	19.1	8月2日
			48	6,462	32.3		8月30日
	6 0	300,000	45	3,000	35.0	1.0	9月10日
合　計		1,315,700		132,948		10.1	

Ⅲ　中間育成試験

材料と方法

中間育成は主に海面の小割網生簀を使用し、昭和55年度は石垣市川平の北西に位置した底地湾で、昭和56年度から59年度まで川平湾で実施した。生簀枠は鉄パイプ製で5×5m，4×4m，3×3mの各サイズと生簀網は1mm目ニップ網、220，160，90径各サイズのモジ網、10mm目ポリ網、15mm目TR網をそれぞれ稚魚の魚体に応じて随時使用した沖出し方法は陸上水槽内の水位を20cm位まで下げ稚魚を1ケ所に寄せ集めてタモ網ですくい、70ℓポリ容器に稚魚を収容、あらかじめ正確に計数された見本と同一濃度になるよう調整し、車と小型船で輸送した。輸送時間は取り上げから生簀収容まで約30分を要した。昭和57～59年度は生簀網を外側から4.6cm目の網で包むように囲い、2重網とした。沖出しの前日から沖出し後7～10日間は夜間に生簀網内へ懐中電燈（電池およびバッテリー式）を点灯し、天然プランクトンが蝟集するよう努めた。餌料種類としては魚肉ミンチ，初期用配合飼料，マダイ配合飼料，ウナギ用配合飼料＋フィードオイル（3～5%添加）及びアルテミア，ノウプリウスをそれぞれ随時使用した。